

## 教区三役宇都宮教会問安記

教区書記 栗原 清

秋山徹議長と飯塚拓也副議長、そして書記を加えた教区三役は、9月13日(木)14時半に宇都宮教会を訪問しました。木村太郎牧師と五人の教会役員が迎えて下さいました。

宇都宮教会は、東武宇都宮駅から1.5kmの北西部に位置し、足利銀行本店の裏手にある歴史と伝統をもった教会です。東日本大震災の影響で構造材に亀裂や壁や天井の剥離が起こり、大きな被害を受けられました。木村太郎牧師及び教会役員の方々は震災当初、「東北地方太平洋沿岸の甚大な被害からすれば、自分たちの教会は軽微な被害と受け留めていた」と、お話しされました。しかし、関東教区被災支援委員会が提供した、建築家の松下充孝氏による簡易診断は、深刻な被害を明らかにしました。宇都宮教会では急遽、役員会や教会懇談会を重ねて協議を重ねられ、現在の教会堂は新築立て替えする方向で教会建築計画が進められています。

教区三役が問安した際には、ジョイ建築設計事務所の寺田氏により、収容人数90席が備えられた礼拝堂と牧師室と事務室、及び厨房、トイレ、エレベータが備えられた教会堂の基本設計図と工事工程表(2013年11月本題工事完了予定)が提案されていました。この基本設計図による工事費概算は8,400万円となり、什器備品費や外構工事、地盤改良工事等を含めるとかなりの工事施工費用となります。教団救援対策本部の支援を受けるとしても、とても宇都宮教会の自己資金だけでは、まかないきれない事を知らされました。

教区三役の問安の最後は、秋山議長の祈祷を持って、宇都宮教会の復興が主の御心に適って実現するように共に祈りました。どうぞ皆様も宇都宮教会の復興の為に祈り下さい。

関東教区では10月にも東北教区被災者支援センター・エマオを通じて仙台へ被災支援ボランティアを派遣いたします。秋から冬にかけて、ボランティア・ワークに携わってくださる方の数が減少しています。「自分につとまるだろうか」という不安を感じる方もいらっしゃると思いますが、できる限りの説明をさせていただき、教区の皆さまが納得して参加できるよう、心がけています。たくさんの方の参加をお待ちしております(締め切りは10月24日とさせていただきます)。

日程：10月29日～11月2日(10月28日の前泊は可能です)

宿泊：エマオに隣接する教会と、アパートの一室に宿泊します。

ボランティアのおもな内容：へドロの下の細かな瓦礫を取り除く作業。被災地域はもと農地なので、農業のできる土地への回復を目指します。朝8時～夕方4時まで、適宜休憩をはさみながらの作業です。帰着後、シェアリング、ミーティングがあります。なお今回の引率は小林祥人(取手伝道所)です。

申し込み：被災支援委員・小林まで電話かメールでご連絡ください。

電話 090-3529-5140

電子メール mail@torideyochien.jp

## アジア学院コイノニア棟・教室棟完成と奉獻式

(大津健一 アジア学院校長・理事長)

去る9月22日、アジア学院の新築なったコイノニア棟でコイノニア棟・教室棟奉獻式～故丹羽章前理事長を覚えて～を開催しました。アジア学院関係者を含めて180名の出席者があり、恵まれた会がもてたと感謝しています。また奉獻式では、昨年3月11日の東日本大震災後のアジア学院復旧・復興のために全身全霊を持って尽力され、本年6月25日突然天に召された丹羽章前理事長を覚える形で奉獻式を持たせていただきました。

更に、この会ではカトリック教会よりカリタスジャパン菊地功責任司教及び日本基督教団石橋秀雄議長より祝辞を賜り、そして関東教区より秋山徹関東教区議長や疋田國磨呂前議長をはじめ栃木地区からも多くの方々が出席くださいました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

アジア学院では、東日本大震災によって被災を受けた建物について即座に復旧工事に取り組み、2011年度研修プログラムを実施しました。また並行して地震後危険だと診断された建物の再建に取り組み、先ず初めに新コイノニア棟と教室棟の新築に着手しました。これらの建物の完成は、アジア学院の震災からの復興の進展を示す最も大きな出来事だといえます。教区の皆様方のこれまでの温かいお支えとお祈りを心より感謝申し上げます。また、震災後国内・国外の教会関係の皆様(個人・団体)が門安下さり、多くのご支援と励ましを頂きました。ありがとうございました。

アジア学院はイエス・キリストの愛に根ざし、アジア、アフリカなどの貧しい農村で働く草の根農村リーダーを育てることを私たちの使命だと考えています。そのためにこれらの建物を有効に用いさせていただきたいと願っています。私は



奉獻式の式辞の中で、詩篇第23篇4節の言葉「死の陰の谷を行くときも、わたしは恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。」を引用して、たとえ絶望のふちにあっても神が共にいてくださって困難を恐れない詩人の信仰を学んだことを話しました。震災と福島第一原子力発電所よりの放射能漏れ事故によって私たちは、暗闇の中に突き落とされたような経験をしてきました。このような中で丹羽章前理事長は震災後、「私たちの働きが、神の御心にならなっているのであれば、必ず助けて下さる。心配しないように」と言ってくださいました。

私たちの災害復興の取り組みは、まだ続きます。現在男子寮の建て替えと豚舎の建て替えを計画中です。男子寮は、改修工事をと考えていましたが、構造上の問題などで建て替えの必要が生じました。豚舎は危険な状態のため建て替えが必要です。そして旧コイノニアの階下にあったチャペルは、旧コイノニア撤去のためなくなり、新しく建替えることとなります。このために教区のご支援によって日本基督教団(東日本大震災救援対策本部)より頂いた献金を使わせていただきます。

私たちは未だ問題を抱えていますが、謙虚な思いをもって神様が共にいてくださることを心にとどめて歩んでいきたいと願っています。